

学校だより

NO.10

2024（令和6）年6月24日

伊賀市立西柘植小学校

発行責任者 里田雅彦

租税教室

6日（木）に、伊賀市法人会から2名の方が来校され、6年生を対象に租税教室が行われました。

まず、はじめに「救急車1台はいくらか。」「学校を建てるのにいくらかかるか。」等、子どもたちの身近にあるものにどれくらい税金が使われているかをクイズ形式で教えていただきました。次に、子どもたちの一番身近な消費税がどのような流れで私たちの暮らしに役立っているか、その仕組みを図解で説明いただきました。

最後に、「もし税金がなかったら、自分たちの暮らしはどうなるのか。」を表わしたアニメを視聴し、自分たちが当たり前のように無料で利用している公園や道路がなくなったり、自分たちの暮らしを支えている警察の仕事やゴミ処理をしてくれる人がなくなったりすることに気づきました。税金は私たちがよりよい生活をするためになくてはならないものであること、税金の使い道を決める議員選挙に参加することの大切さを教えていただきました。子どもたちは、「税金によって豊かな生活ができることがよくわかった。」といった感想をもち、税金の大切さについて考えることができました。



こども新聞

日刊の毎日子ども新聞を購読しています。1階体育館前に新聞コーナーを設け、今日の新聞と昨日の新聞を置いています。子どもたちは、廊下を通るときに新聞を開き、読んでいます。子ども新聞は、全ての文章に読み仮名がふられ、毎回さまざまな分野の記事が載せられています。低学年の子どもたちも「今日はどんな写真や記事が載っているかな。」と興味をもって見えています。最近、スマホやタブレットですぐに情報を得ることができますが、調べ方によっては自分の興味・関心のある情報ばかりになってしまうことがあります。さまざまな分野の情報にふれることで、多面的なものごとを見たり考えたりする力がつくと思います。

先日、4年生の子どもたち一人ひとりに1日分の新聞を渡し、興味をもった記事について尋ねてみました。ある子は、「クマ こわいけど知っておきたい」という記事をあげ、クマに襲われないようにクマのことを知っておくことは大事だと書いていました。また、ある子は「発電所にムール貝」という記事を取り上げ、北海道の火力発電所にムール貝がたくさんいて有名になっていることがおもしろいと書いていました。このように子ども新聞には、今、話題になっていることや日本各地の珍しい現象を子どもにわかりやすい表現で載せられています。子ども新聞を読むことで、さまざまなことを知り、興味・関心をもってほしいです。

